

「NTRに関する実証研究」（仮称）に係る計画書

変態学研究所

1. リサーチの背景

NTR とは、極めて単純化して言えば、「一定程度深い関係性にある 2 人のうち 1 人以上が第三者によって寝取られること」をその要素とする。近年このジャンルは、とりわけ創作において人気を集めている（FANZA, 2018）。このことからすれば、同ジャンルを検討することは、重要な研究課題であると考えられる。

また、NTR ものというジャンルは、進化心理学の理論と矛盾する可能性があるように思われる。進化心理学とは、進化論の観点から人間の心理的メカニズムの解明を目指す学問分野であり（Tooby & Cosmides, 2015）、人間のセクシャリティに関わる分野で大きな成果をあげてきた（e.g., Buss, 1989; Buss & Schmitt, 1993）。進化心理学は、人々がとる行動や持つ信念はそれが生存にとって適合的であるがゆえに選択されたものであることを想定する。このような想定からすれば、「性的行動の相手を第三者に奪われること」をその要素とする NTR は、生存にとって非適合的であり、したがって多くの人に選好されないのではないかと考えられる。しかし上述のように NTR は広い人気を博している。このような現状を進化心理学の想定と適合的に説明することはできないか。この点を検討することは、進化心理学理論の射程を示すという点で有益であると思われる。

2. リサーチの目的

本リサーチは、進化心理学の観点から NTR への選好を検討することを目的とする。

3. 用いる手法

シナリオ法による調査を行う。具体的には、NTR を描いたシナリオを提示し、そこで描かれる登場人物の誰に感情移入するか、どのような動機から当該のシナリオを選好するか（あるいは選好しないか）を尋ねる。

分析の手法としては、シナリオへの選好を従属変数、感情移入および動機、その他の統制変数を独立変数とした重回帰分析を行う。必要に応じて階層的重回帰分析を行うことも視野に入れる。

4. 期待される利益

- ①進化心理学理論が NTR への選好に応用できるかが明らかになる。
- ②人々がどのような動機から NTR を選好するかが明らかになる。
- ③どのような人（性別や年齢などのデモグラフィック変数に関して）が NTR を選好するかが明らかになる。

5. 今後の計画

- 8月上旬：ウェブ調査会社を用いてオンラインでの調査を実施
- 8月中旬：分析を実施
- 8月下旬：報告書を執筆
- 9月上旬：報告書を公開

引用文献

- Buss, D. M. (1989). Conflict between the sexes: strategic interference and the evocation of anger and upset. *Journal of Personality and Social Psychology*, 56, 735–747.
- Buss, D. M., & Schmitt, D. P. (1993). Sexual strategies theory: An evolutionary perspective on human mating. *Psychological Review*, 100, 204–232.
- FANZA (2018). 【FANZA REPORT 2018 同人編】コミケ直前「同人に関する統計調査」緊急結果発表！ (<https://special.dmm.co.jp/fanza/feed/news/fanza-report-2018-doujin>)
- Tooby, J., & Cosmides, L. (2015). The theoretical foundations of evolutionary psychology. In D. M. Buss (Ed.), *The Handbook of Evolutionary Psychology. Volume 1: Foundations* (2nd ed., pp. 3–87). John Wiley and Sons.